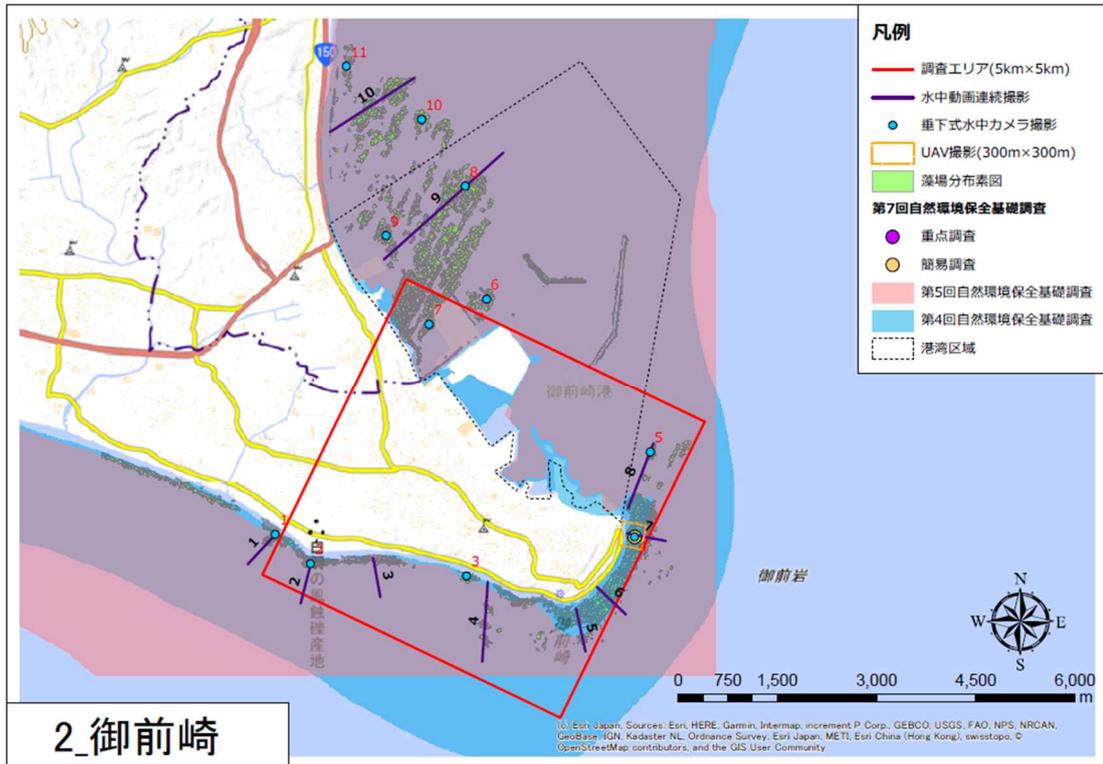


(1) 調査海域名	中部太平洋沿岸海区 御前崎
(2) 調査海域の所在	静岡県御前崎市～牧之原市周辺
(3) 調査海域及び調査位置図	



(4) 調査位置の詳細 (JGD2011)

詳細な位置情報は掲載しておりません。詳細な位置情報を希望される場合は、藻場調査ウェブサイトの「現地調査の結果」の「調査結果（データ）」をご覧ください。

【水中動画連続撮影】

ライン 番号	岸側基点				沖側基点				測線距離 (m)
	緯度	経度	緯度	経度	緯度	経度	緯度	経度	
1	-	-	-	-	-	-	-	-	513
2	-	-	-	-	-	-	-	-	513
3	-	-	-	-	-	-	-	-	499
4	-	-	-	-	-	-	-	-	1,000
5	-	-	-	-	-	-	-	-	550
6	-	-	-	-	-	-	-	-	502
7	-	-	-	-	-	-	-	-	491
8	-	-	-	-	-	-	-	-	873
9	-	-	-	-	-	-	-	-	1,996
10	-	-	-	-	-	-	-	-	1,253
総測線距離									8,191

測線 1 の状況：水深約 6～10 m で、砂質域を主体とする測線であったが、海藻草類はみられなかった。

測線 2 の状況：水深約 5～8 m で、起伏に富んだ岩盤が主体で、岩盤と岩盤の谷間には礫や砂が堆積していた。隆起した岩盤上でアミジグサ科（被度 10%）、ワカメ（被度 5%）、ムカデノリ科（被度 5%未満）、褐藻類（被度 5%未満）の海藻がみられた。

測線 3 の状況：水深約 9 m で、砂質域に岩盤が点在する測線であったが、海藻草類はみられなかった。

測線 4 の状況：水深約 4～8 m では、砂質域に岩盤が点在し、岩盤上でムカデノリ科（被度 10%）、アミジグサ科（被度 5%未満）等の海藻がみられた。それ以深は、砂質域であったが、海藻草類はみられなかった。

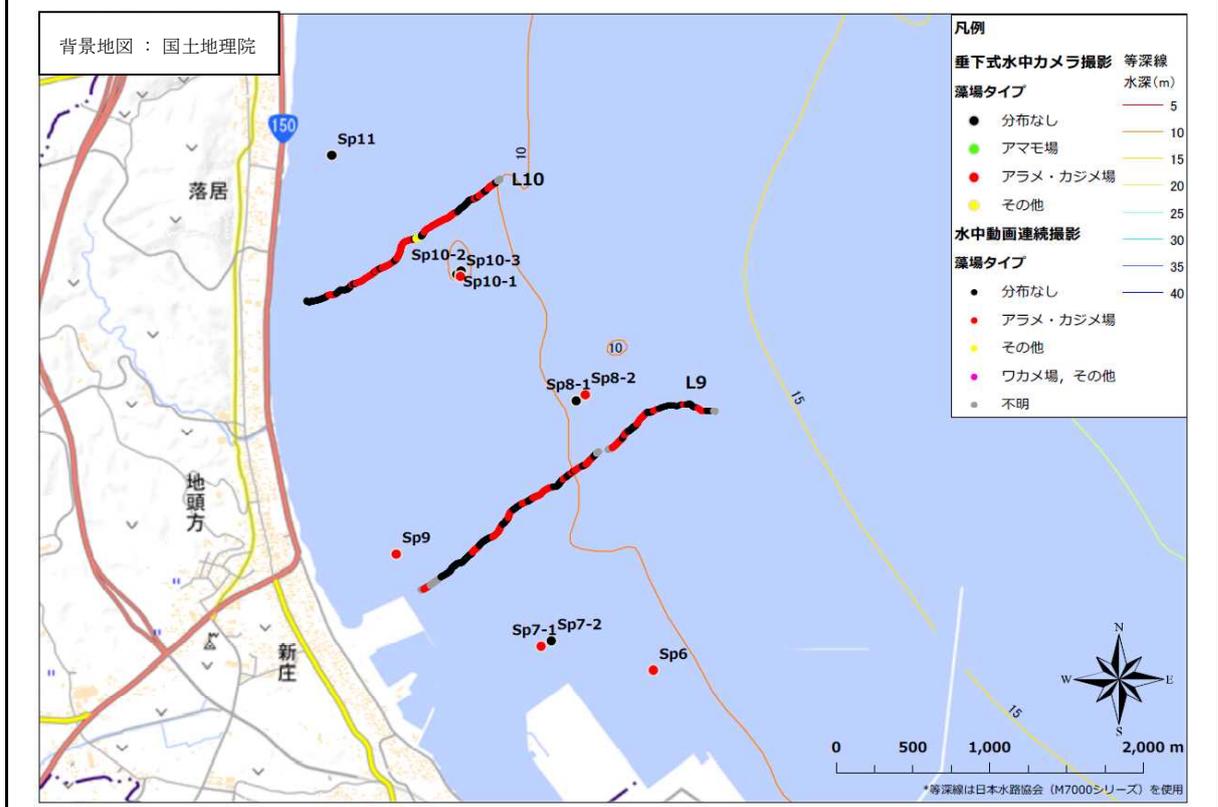
測線 5 の状況：水深約 7～15 m で、巨礫を主体とする測線であった。礫上に小型海藻（被度 5%未満）がみられた。

測線 6 の状況：水深約 8～16 m で、岩盤に礫、砂が点在する測線であった。岩盤上に小型海藻（被度 5%未満）がみられた。

測線 7 の状況：水深約 7～13 m で、岸よりでは岩盤が主体となり、岩盤上に小型海藻（被度 5%未満）がみられた。沖合では礫、砂質域が主体となり、局所的にみられる岩盤上で褐藻類（被度 5%未満）がみられた。

測線 8 の状況：水深約 6～10 m で、砂質域に岩盤、礫が点在する測線であった。岩盤上で小型海（被度 5%未満）が確認された。

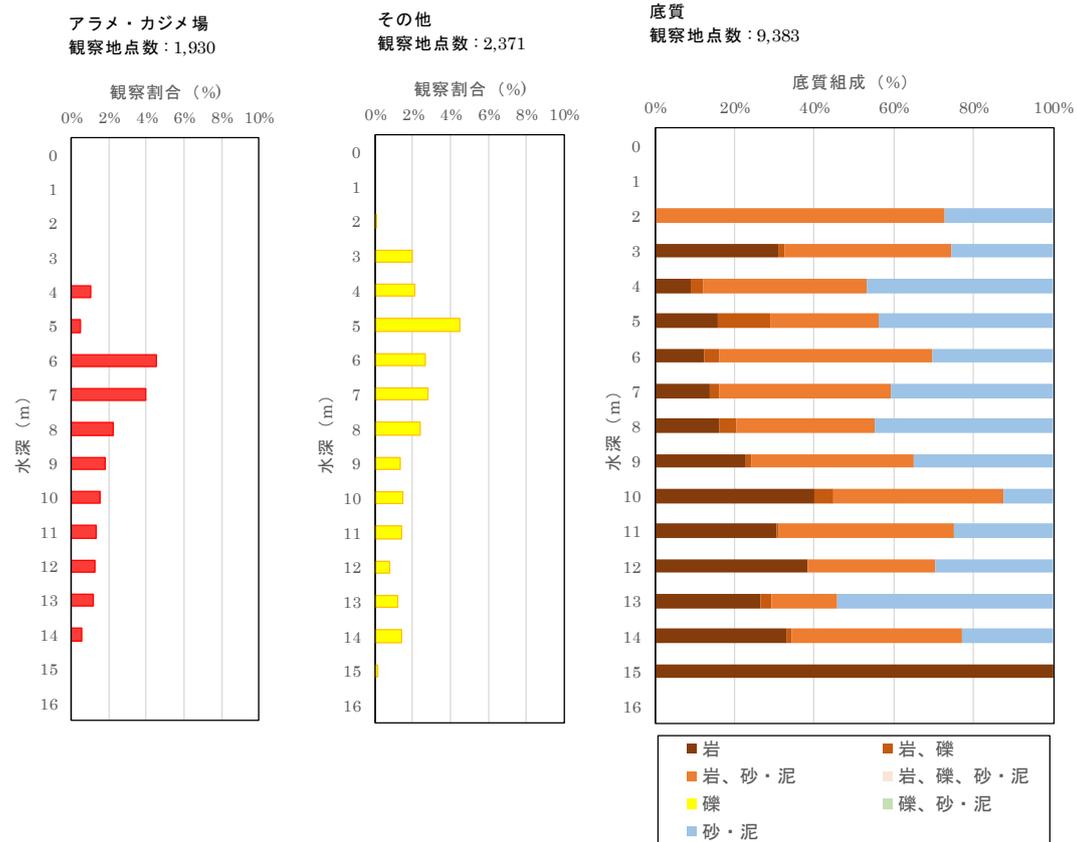
○測線 9～10 の状況



測線 9 の状況：水深約 6～16 m で、砂質域に岩盤が点在する測線であった。点在する岩盤上でカジメ（被度 5～30%）の海藻がみられた。

測線 10 の状況：水深約 5～12 m で、砂質域に岩盤が点在する測線であった。点在する岩盤上でカジメがみられ、測線全体で被度 5～80% となり、特に水深 8 m 付近で最大被度 80% と高被度でみられた。

【各藻場タイプにおける鉛直頻度分布図】



注：観察割合 = 各藻場タイプが観察された地点数 / 総観察地点数 9,770 地点

【垂下式水中カメラ撮影】

垂下式水中カメラ撮影の結果は以下のとおりで、御前崎周辺では岩盤上でムカデノリ属、アミジグサ科等の小型海藻がみられた。御前崎港沖ではカジメがみられた。

地点番号	水深 (m)	主要な構成種	底質	備考
Sp1	-	分布なし	3, 4	砂地に礫がまじる
Sp2	4.6	紅藻類 20%	2, 4	-
Sp3	4.5	分布なし	4	砂地が一面に広がる
Sp 新規 1	10.1	アミジグサ科+	2	
Sp4	8.3	紅藻類+	2	-
Sp5	6.5	ムカデノリ属+	1, 2	-
Sp11	4.5	分布なし	4	砂地が一面に広がる
Sp10-1	10.6	分布なし	4	砂地が一面に広がる
Sp10-2	10.7	分布なし	4	砂地が一面に広がる
Sp10-3	10.8	カジメ	1	砂地が一面に広がる
Sp9	6.3	カジメ 10%	1, 4	-
Sp8-1	12.5	分布なし	4	砂地が一面に広がる
Sp8-2	12.8	カジメ+	1, 4	砂地に点在する岩礁上に海藻が生育
Sp7-1	8.4	カジメ+	1, 4	砂地に点在する岩礁上に海藻が生育
Sp7-2	8.4	分布なし	4	砂地に点在する岩石上にカジメがみられる
Sp6	10.3	カジメ 10%	1	カジメがパッチ状に生育する



カジメ 水深約 11 m



カジメ幼体 水深約 6 m



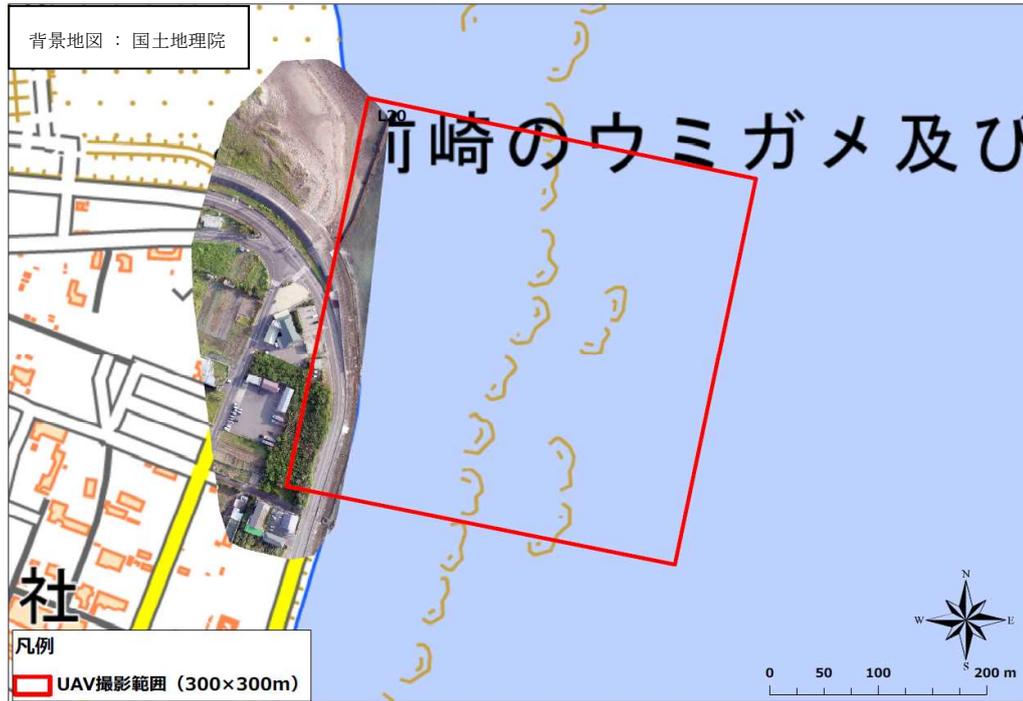
紅藻類 水深約 7 m



紅藻類 水深約 6 m

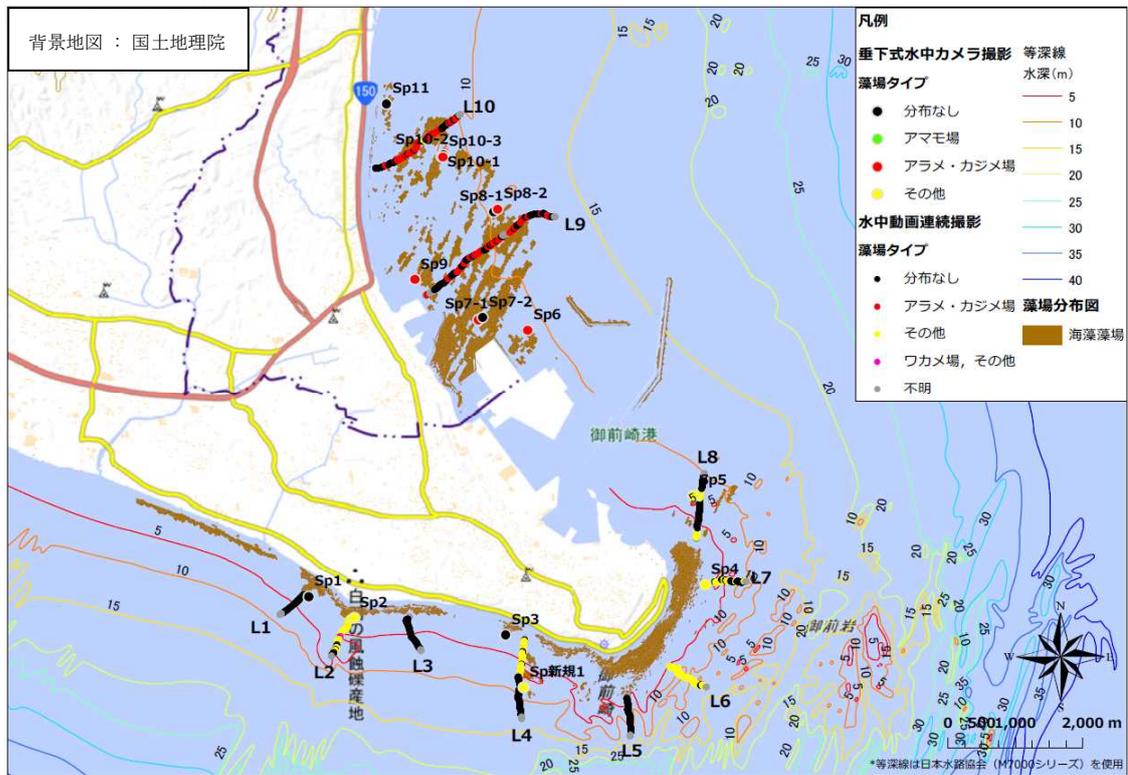
【UAV 撮影】

300m 四方のオーバーラップ撮影の結果、汀線周辺のみオルソ化された。海域部に干出した岩礁等がなく、遠浅地形による波の影響によりオルソ化が難しかったと考えられた。



撮影時間	潮位 (m)	風向・風速	波高 (m)	撮影高度 (m)	備考
15:21~15:31	CDL 0.9 m	S・1.7 m/s	0.5 m	149 m	-

(9) 藻場分布図



(10) まとめ

太平洋に面して遠浅地形を呈する御前崎周辺では、砂質域を主体とする測線（測線 1～8）が多く、散在してみられる岩盤上にワカメ、小型海藻のサナダグサやフダラク等の褐藻類や紅藻類がみられた。

御前崎港の北方向沖で観察した測線 9～10 では、砂質域に岩盤や岩塊が混じる測線が多く、水深約 5～16 m の岩盤上においてカジメがみられ、その最大被度は 50%であり、水深約 8 m 付近において確認された。

すべての測線の砂質域では、アマモ等の海草の生育は確認されなかった。

(11) その他特記事項

御前崎周辺の測線は、遠浅地形のために汀線付近まで船舶が侵入できなかったことから、測線は沖合方向に向かって延長して観察した。



周辺状況（測線 4）



周辺状況（測線 8）



岸边周辺の浅場



岸边周辺の平磯